OJ INTRODUCTION

Introduce—
ASKUL

—オフィス大変革時代

お客様の声に社員全員がすぐに反応できるオフィス

ASKUL

アスクル東京センター・e-tailing center受付

アスクル東京センター
e-tailing center玄関

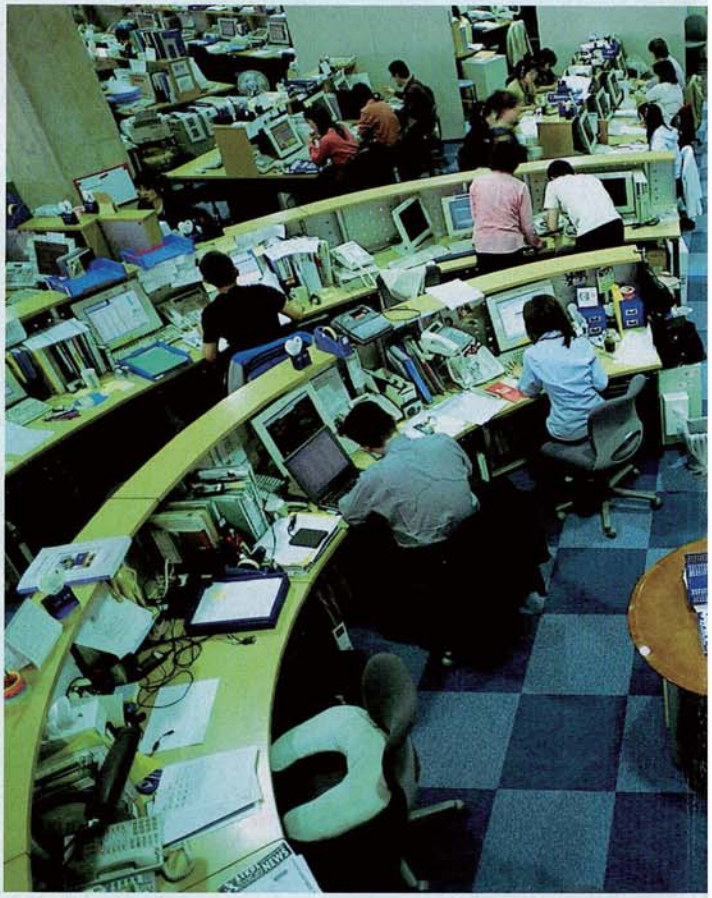
「うちの従業員は、みな活気にあふれている」と自信を持って主張できる会社は、そう多くはあるまい。今回紹介するアスクル(株)のオフィスは、仕切りをなくし空間を共有することで、ワーカーのモチベーション向上を見事なまでに実現させた。既成概念にとらわれないサービスを提供する同社らしく、座席を円状に配置したり見学者用ブリッジを作るなど、斬新な試みも数多く見られる。

常に全員で追いかけて、

業務部門を物流センター5階に集約

エレベーターで5階に着いたと同時に伝わってくる猛烈な活気。たっぷりと照りこんでくる太陽光。「えっ、ここが本当にオフィス？」と、戸惑いすら感じてしまう。

FAXまたはインターネットで注文すると、事務用品などオフィス関連商品を沖縄・離島を除く全国に翌日（一部の地域は当日）配送するアスクルが、物流の東京センター用施設として東京都江東区辰巳の地に進出したのは1999年7月のこと。当初は1～4階を、倉庫兼配送センターとしてのみ利用していた。しかし5階部分が空いたため、お互いに他のメンバーの仕事を理解することで、経営の効率アップとコミュニケーションの親密化を図ろうと、点在していた業務部門を5階部分に集約させる計画がスタート。今年の1月に「e-tailing center」と呼ばれるオフィスが始動し、この4月の本社移転で計画は完成した。

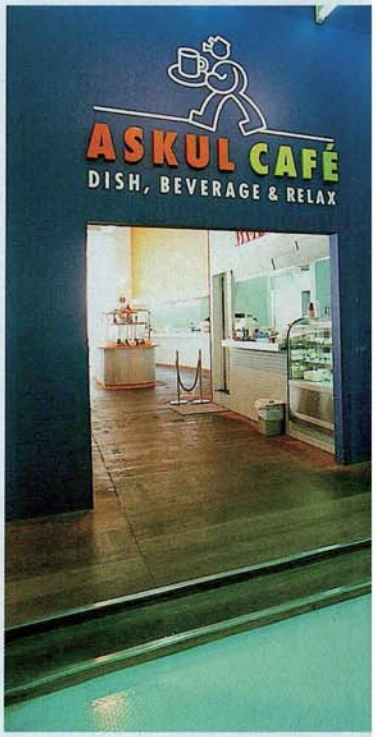


▲社員用のミーティングスペース
窓際にあるため、太陽光がたっぷりと入ってくる。

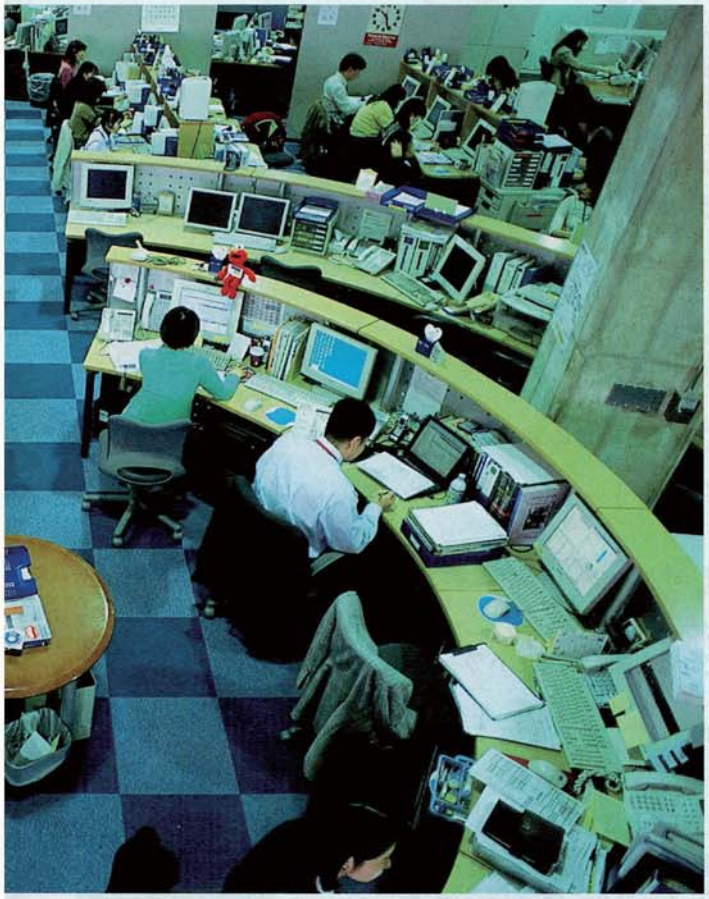
▲パブリックスペース
オフィスとアスクルカフェの間にある。バスケットボールのゴールが印象的。

ざわめきを共有する

1フロアは約1,000坪、天井高は5m。もとは倉庫であったため、オフィス内には仕切りがない。移転の目的である従業員の親密化を図るため、あえて仕切りがないことを利用したことに、「e-tailing center」の大きな特徴がある。オフィスのほぼ中心に、円状に広がっているのがリレーションシップセンター。お客様からの電話、FAX、メールを受ける場所だ。ここで何かが起きると、仕切りがないためフロア中にざわめきが伝わる。このざわめきを、同社は大切にしているそうだ。そのため、社長他経営の中心メンバーの場所は、リレーションシップセンターの円のすぐ隣りに置かれ、アクシデントが発生したときも迅速な判断ができるようになっている。ちなみに社長以下、全職員の机の大きさは80cm～1m。役職で区別をする発想はないそうだ。



全員が行動を判断していく



▲リレーションシップセンター
電話、FAX、メールでお客様からの情報が入ってくる同社の頭脳部分。

訪問者用にブリッジを設置

何より特徴的なのが、オフィスの入口からパブリックスペースまでを結ぶ見学者用ブリッジ。毎日のように訪れるビジネスパートナーに、お客様の声を大切にしているアスクルの考え方を理解してもらうよう作られた。前述のリレーションシップセンターを含めたオフィス全体を、俯瞰することができる。

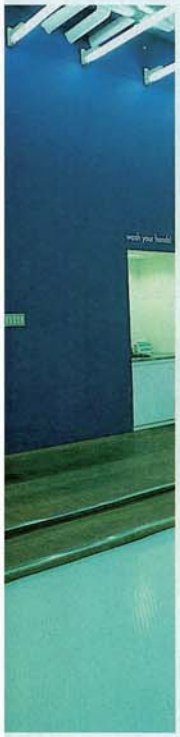
同社の岩田社長は、「従来のオフィスは、何かあっても自分の打順が来るまで何もできない野球型。しかしうちは、ボールの行方を全員で追い、自分の役割を判断して行動するラグビー型を目指した」と話す。ここでは、全員が常にアクティブでいることが求められる。だからこそ、自然にアクティブな意識を持ち続けられる、アクティブな行動が起こせるオフィス機能、雰囲気を保ち続ける必要がある。無理せず仕事に意欲が湧くオフィス。"新時代の理想的なオフィス"の本質がここに見える。

▲見学者用ブリッジ
オフィス全体を俯瞰できる。5mの天井高が可能にした。

倉庫からオフィスに作りかえるには、窓を作ることがどうしても必要になる。太陽光をたっぷり取りこむように作られた大きな窓は、オフィスをとても開放的にしている。社員用のミーティングスペースも、東京湾の湾岸を見渡すことができる窓際に置かれた。

ワーカーのエネルギー源、そして憩いの場となるのが、社員食堂の役割を担うカフェテリア"アスクルカフェ"。こちらは、5階の一番眺めのよい場所にある。同社が辰巳に進出した当時から、周辺には食事のできる店舗がなく、当初は毎日、仕出し弁当で対応していた。しかしそれではあじけないので、オリジナリティーの高い社員食堂を運営することになる。社員同士でコミュニケーションを図ったり、情報交換をしたり、あるいはリフレッシュスペースとしても有意義に活用されている。ここもオフィスとの仕切りはない。オフィスとアスクルカフェの間にある広いパブリックスペースは、朝礼やプレゼンテーションなどの業務や、休憩時間に利用されている。

▲アスクルカフェの内部
木場の材木置き場など東京湾を一望できる。



◀アスクルカフェの看板
マークもアスクルのキャラクターがトレーを持つ、カフェオリジナルのものだ。